※令和４年度以降入学生用

学校番号	402

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ｃ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	数学Ｃ　（数研出版）						
副教材等	新課程　サクシード　数学Ｃ　（数研出版） チャート式　新課程　基礎からの数学Ｃ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけでなく、数学の用語・記号、公式、定理などを体系的に理解して身に付け活用することです。また数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶことになります。このような見方や考え方のよさを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学を通して、見通しをもち筋道を立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

2　学習の到達目標

平面上の曲線と複素数平面についての理解を深め、知識と技能を習得し、事象を数学的に考察し表現する力をつけ、それらを積極的に活用していく。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第３章　複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式と乗法, 除法 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	a: 複素数平面の定義を理解し, 複素数を表す点を複素数平面上に記すことができる。ド・モアブルの定理を利用して, 複素数の n 乗を求めることができる。 b: 1 の n 乗根の求め方をもとに, 一般の複素数の n 乗根を求めることができる。 c: 図形の問題を, 複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
後期	第４章　式と曲線	【第1節　2次曲線】 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質	a: 放物線が, 焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。楕円が, 2 つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 b: 2 次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え, 共有点の個数について考察することができる。 c: 2 次曲線（楕円, 放物線, 双曲線）の焦点の性質について進んで考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
		【第2節　媒介変数と極座標】 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式 9. コンピュータといろいろな曲線	a: 極座標で表された点の位置を表示できる。点の座標について, 直交座標と極座標を相互に変換できる。 b: 2 次曲線の極座標表示を, 離心率 e を用いて統一的に考察することができる。 c: サイクロイドなど媒介変数表示でないと表しにくい曲線を進んで考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度